

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 地理歴史 科目 地理総合

教科： 地理歴史 科目： 地理総合 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 7 組

教科担当者： （1～7組： 谷口）

使用教科書： （東京書籍 地理総合）

教科 地理歴史 の目標：

- 【知識及び技能】地理歴史に関する諸事象を理解し、さまざまな情報を適切かつ効果的に調べる技能を身に付ける。
- 【思考力、判断力、表現力等】地理歴史の諸事象を多面的・多角的に考察し、その内容を適切に表現できるようになる。
- 【学びに向かう力、人間性等】地理歴史の諸事象に関わる課題を主体的に追及し、よりよい社会の実現に寄与する姿勢を身に付ける。

科目 地理総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地理に関わる諸事象を理解し、さまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる諸事象を多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想をもとに議論する力を身に付けている。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとする態度を身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 私たちが暮らす世界 【知識及び技能】 世界地図や地球儀での表現方法ならびに日本の位置や領域についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・地球上の位置に関する事柄について、緯度・経度や世界地図・地球儀や領域の特徴をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・地球上の位置に関する事柄に対する関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追及する。	・緯度や経度の基本的な事柄を理解する。 ・世界地図と地球儀についての基本的な事柄を理解する。 ・日本の位置と領域、日本が抱える領土問題について理解する。 教材： ・教科書、資料集、地図帳 ・一人1台端末等	【知識及び技能】 世界地図や地球儀での表現方法ならびに日本の位置や領域についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・地球上の位置に関する事柄について、緯度・経度や世界地図・地球儀や領域の特徴をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・地球上の位置に関する事柄に対する関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追及している。	○	○	○	3
	B 地図や地理情報システムの役割 【知識及び技能】 地図についての基本的な事柄を理解させ、その知識を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 さまざまな地図について、縮尺・媒体・用途などに着目し、適切に整理する。 【学びに向かう力、人間性等】 紙の地図やGISに対する関心を高め、閲覧や作業を通して、それらの特徴をとらえる。	・地図の分類についての基本的な事柄を理解する。 ・地形図や地理院地図についての基本的な事柄を理解する。 ・主題図についての基本的な事柄を理解する。 ・地理情報システム (GIS) についての基本的な事柄を理解する。 教材： ・教科書、資料集、地図帳 ・一人1台端末等	【知識及び技能】 地図についての基本的な事柄を理解させ、その知識を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 さまざまな地図について、縮尺・媒体・用途などに着目させ、適切に整理している。 【学びに向かう力、人間性等】 紙の地図やGISに対する関心を高め、閲覧や作業を通して、それらの特徴をとらえている。	○	○	○	2
	定期考査			○	○		1
	C 資料から読み取る現代世界 【知識及び技能】 ・交通・通信の利用・整備の状況や国境をこえた人・モノ・情報の移動、世界の国家群などについて基本的な事柄と追及の方法を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・グローバル化の加速によって形成された地域経済圏や国家群について、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察させ、適切に表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・グローバル化の進む現代世界において、政治的・経済的な国家間の結び付きが強まっていることに対する関心と課題意識を高める。	・交通の発達と世界の一体化、さまざまな交通手段についての基本的な事柄を理解する。 ・情報通信網やさまざまな通信技術、それらの発達についての基本的な事柄を理解する。 ・国境をこえて移動をする人々やその目的、移動する地域についての基本的な事柄を理解する。 ・世界の貿易額の増大、日本を含む各国の貿易の特徴や産業構造の変化についての基本的な事柄を理解する。 ・世界にあるさまざまな国家群についての基本的な事柄を理解する。 教材： ・教科書・資料集・地図帳 ・一人1台端末等	【知識・技能】 交通・通信の利用・整備の状況や国境をこえた人・モノ・情報の移動、世界の国家群などについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・グローバル化の加速によって形成された地域経済圏や国家群について、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、適切に表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・グローバル化の進む現代世界において、政治的・経済的な国家間の結び付きが強まっていることに対する関心と課題意識を高めている。	○	○	○	10
定期考査			○	○		1	

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科

公民 科目 公共

教科： 公民 科目： 公共 単位数： 2 単位
 対象学年組：第 1 学年 1 組～ 7 組
 教科担当者：（1組：久保寺）（2組：久保寺）（3組：小川）（4組：久保寺）（5組：久保寺）（6組：久保寺）
 （7組：小川）

使用教科書：（実教 公共 704 公共）

教科 公民 の目標：
【知識及び技能】 選択・判断の手掛かりとなる概念・理論及び倫理、政治、経済に関わる現代の諸課題について理解している
【思考力、判断力、表現力等】 現代の諸課題について事実を元に概念などを用いて多面的・多角的に考察し、解決策を公正に判断できる
【学びに向かう力、人間性等】 国家及び社会の形成者としてよりよい社会の実現のため、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている

科目	公共	の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代の諸課題を捉え考察し選択判断するための手掛かりについて理解する力を養うと共に、倫理的主体等として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	現代の諸課題について、公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察すると共に、構想について議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとするとともに、公共的な空間に生き国民権を担う公民として自国を愛し、その平和と繁栄を図ろうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 公共の扉 【知識及び技能】 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など公共的な空間の基本原則について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 公共的な空間の基本原則について思考実験などの概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会とのかわりについて多面的・多角的に考察し、表現する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 自主的により良い公共的な空間を作り出し、自立的に自立した主体として幸福、正義、公正などに着目して現代社会の課題を追究・解決する方法を意識する。	指導項目： ・政治と国家に必要な要素について理解する。 ・民主政治が成立した過程について理解する。 ・社会契約説について理解する。 ・法の支配の考え方と基本的人権の歴史的な発展、立憲主義の考え方について理解する。 ・議会制民主主義と多数決原理、民主政治の課題について理解する。 ・各国の政治体制について理解する。 教材： ・教科書 ・プレゼンテーションツール ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など公共的な空間の基本原則について理解できている。 【思考・判断・表現】 公共的な空間の基本原則について思考実験などの概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会とのかわりについて多面的・多角的に考察し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自主的により良い公共的な空間を作り出し、自立的に自立した主体として幸福、正義、公正などに着目して現代社会の課題を追究・解決しようとしている。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1
	B 日本国憲法の基本的性格 【知識及び技能】 法や規範の意義及び役割、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に憲法の下、適正な手続きに則り法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し個人や社会の紛争を調停・解決することなどを通して権利や自由が保障、実現させ、社会の秩序が形成、維持されて行く事について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 憲法や法に関わる各事項を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成を視野に入れながらその主題の解決に向けて協働して考察・構想したことを根拠をもって表現する力を養わせる。 【学びに向かう力、人間性等】 小学校及び中学校で学んだ知識などを基盤に、前単元で身に付けた公共的な空間の基本原則を活用して現実社会の諸課題に関り設定した主題について多面的・多角的に考察するとともに、他者との協働を可能にする要因や協働を阻害する要因について考察を深める。	指導項目： ・日本国憲法の成立の背景と明治憲法との相違点について理解する。 ・自由権・参政権・社会権等の各基本的人権の内容について理解する。 ・死刑制度や様々な差別、生存権の保障など人権に関する現代社会の課題について理解する。 ・「新しい人権」の内容とそれが求められるようになった背景について理解する。 ・社会的暴力による人権侵害や人権の国際化について理解する。 ・公共の福祉について理解する。 ・憲法上の平和主義の内容と日米安保体制が誕生した背景について理解する。 ・1990年代以降の安全保障体制の変容と今日の課題について理解する。 教材： ・教科書 ・プレゼンテーションツール ・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】 法や規範の意義及び役割、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に憲法の下、適正な手続きに則り法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し個人や社会の紛争を調停・解決することなどを通して権利や自由が保障、実現させ、社会の秩序が形成、維持されて行く事について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 憲法や法に関わる各事項を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成を視野に入れながらその主題の解決に向けて協働して考察・構想したことを根拠をもって表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 小学校及び中学校で学んだ知識などを基盤に、前単元で身に付けた公共的な空間の基本原則を活用して現実社会の諸課題に関り設定した主題について多面的・多角的に考察するとともに、他者との協働を可能にする要因や協働を阻害する要因について考察を深めようとしている。	○	○	○	10
定期考査			○	○		1	
A 日本政治機構と政治参加 【知識及び技能】 政治参加と公正な世論の形成、地方自治、国家主権、領域、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割に関わる現実社会の事柄や課題を基により良い社会は憲法の下、個人が議論に参加し意見や利害の対立状況を調整して合意を形成する事などを通して築かれるものについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 前単元及び政治に関わる各事項を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成を視野に入れながらその主題の解決に向けて協働して考察・構想したことを根拠をもって表現する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】	指導項目： ・国会の役割や権限、運営について理解する。 ・内閣の権限や議院内閣制の仕組みについて理解する。 ・行政権の拡大と官僚政治の課題、その転換に向けた様々な改革について理解する。 ・司法権の独立や裁判の仕組み、各種裁判所役割について理解する。 ・違憲立法審査権について理解する。 ・裁判員制度や検察審査会の意義について理解する。 ・地本自治の本旨である団体自治と住民自治について理解する。 ・地方自治の政治的・経済的課題について理解する。 ・政党政治の課題について理解する。 ・政治的無関心や無党派層の増加などの課題について理解する。	【知識及び技能】 政治参加と公正な世論の形成、地方自治、国家主権、領域、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割に関わる現実社会の事柄や課題を基により良い社会は憲法の下、個人が議論に参加し意見や利害の対立状況を調整して合意を形成する事などを通して築かれるものについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 前単元及び政治に関わる各事項を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成を視野に入れながらその主題の解決に向けて協働して考察・構想したことを根拠をもって表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民・国民としての自治意識の涵養に向けて民主政治における選挙の意	○	○	○	10	

2 学 期	<p>地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民・国民としての自治意識の涵養に向けて民主政治における選挙の意義について意識を向ける。</p>	<p>教材： ・教科書 ・プレゼンテーションツール ・一人1台端末の活用 等</p>	<p>義について意識している。</p>				
	<p>B 現代の経済社会 【知識及び技能】 職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢化における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題を基に公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が行われること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府が担っていること及びそれによって活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 前単元までに身につけた法・政治及び経済など側面を関連させ自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会選択を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察・構想したものを表現する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 多様な契約及び消費者の権利と責任などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、法や規範に基づいて権利や自由が保障、実現され社会の秩序が形成、維持されていくことについて意識を向ける。</p>	<p>指導項目： ・生産・分配・消費、希少性、トレードオフ、機会費用など、経済の根本的な概念について理解する。 ・資本主義経済の成立と展開、経済における政府の役割の変化について理解する。 ・需要と供給により価格と生産量に変化することについて理解する。 ・希少な資源の効率的な配分をもたらす市場機構や、寡占や独占、外部不経済、情報の非対称性など市場機能の限界について理解する。 ・有限責任と無限責任の考え方や株式会社の仕組みについて理解する。 ・NIの生産・分配・支出のそれぞれの内容、GDPなどの経済指標では計りきれない福祉的側面からの指標や環境的側面からの指標、社会的側面からの指標などがあることについて理解する。 ・金融は、信用創造等により、家計や企業からの資金を様々な経済主体に投資することで資本を増加させ、生産性を高め、社会を豊かに発展させる役割を担っていることについて理解する。 ・中央銀行の役割や金融政策の目的と手段について理解する。 ・政府の経済政策には、効率と公正、経済成長と環境保全など、相互に対立する可能性のある目標の実現を調整する必要があることについて理解する。</p> <p>教材： ・教科書 ・プレゼンテーションツール ・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識及び技能】 職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢化における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題を基に公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が行われること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府が担っていること及びそれによって活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることを理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 前単元までに身につけた法・政治及び経済など側面を関連させ自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会選択を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察・構想したものを表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 多様な契約及び消費者の権利と責任などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、法や規範に基づいて権利や自由が保障、実現され社会の秩序が形成、維持されていくことについて意識している。</p>	○	○	○	10
	<p>定期考査</p>			○	○		1
	<p>C 日本経済の特質と国民生活 【知識及び技能】 多様な契約及び消費者の権利と責任、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢化社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 前単元までに学習した法・政治・経済に関する知識を基に、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 多面的・多角的な考察や深い理解を通して多様な契約及び消費者の権利と責任、職業選択、雇用・労働問題、少子高齢化社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決する意識をもつ。</p>	<p>指導項目： ・戦後復興、高度経済成長期、安定成長期、現在の成長率バブル経済の発生と崩壊などの背景や要因について理解する。 ・中小企業が日本経済の発展に寄与してきた役割について理解する。 ・後継者不足のために黒字経営であっても廃業を選ぶ中小企業がある状況を知り、事業承継が課題となっていることについて理解する。 ・ベンチャー企業や社会的企業のように、大企業では事業を進められなかった分野で活躍する中小企業のあり方について理解する。 ・農業基本法や食料・農村基本法、食糧管理制度や新食糧法などの農業政策の流れについて理解する。 ・食料安全保障の観点から、日本の食料自給率と貿易の関係について理解する。 ・典型的な消費者問題や質劣商法にはどのようなものがあるか理解する。 ・日本における公害の発生と原因について理解する。 ・労働基本権と労働三法の内容並びに職場における不当な差別的扱いがあつてはならず、そのための法整備と対策が急がれることについて理解する。 ・社会保障は高齢者だけのものではなく、社会に参画するすべての世代について検討されるべきものであることを理解する。</p> <p>教材： ・教科書 ・プレゼンテーションツール ・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識及び技能】 多様な契約及び消費者の権利と責任、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢化社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 前単元までに学習した法・政治・経済に関する知識を基に、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 多面的・多角的な考察や深い理解を通して多様な契約及び消費者の権利と責任、職業選択、雇用・労働問題、少子高齢化社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>	○	○	○	8
2 学 期	<p>D 国際政治の動向と課題 【知識及び技能】 国家主権、領土（領海、領空を含む。）、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、相互に対等なものとして尊重される主権国家の行動を規律し国際間の秩序をつくり出す国際法の意義と役割や領土が領空や領海を含むものであり、国民の基本的な生活を保障し資源を確保する領域であること、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について理解する。</p>	<p>指導項目： ・主権国家と国際社会の成り立ちや国際社会には中央政府のようなものが存在しておらず、そのなかで各国が国家利益を調整する国際政治が行われていることについて理解する。 ・二度の世界大戦を契機として、国際法に大きな変化が生じたことを理解する。 ・国際司法裁判所や国際刑事裁判所が設立され、NGOをはじめ多様な主体が活動するなど、国際政治に変化が生じていることを理解する。 ・国際連盟の成立と崩壊の歴史的経緯、勢力均衡と集団安全保障の違いや、その機能について理解する。 ・冷戦構造の概要と共に冷戦終結後に民族紛争が多発したことを適切に読み取っている。ま</p>	<p>D 国際政治の動向と課題 【知識及び技能】 国家主権、領土（領海、領空を含む。）、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、相互に対等なものとして尊重される主権国家の行動を規律し国際間の秩序をつくり出す国際法の意義と役割や領土が領空や領海を含むものであり、国民の基本的な生活を保障し資源を確保する領域であること、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 自立した主体として解決が求められる具体的</p>				

	<p>【思考力、判断力、表現力等】 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する力を身に付ける。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 多面的・多角的な考察や深い理解を通して、国家主権、領土（領海、領空を含む。）、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとする意識をもつ。</p>	<p>た、国家間の戦争が対テロ戦争の様相を示した経緯について理解する。 ・民族問題について、問題の所在や解決に向けた働きかけの推移について理解する。 ・核抑止論の考え方について理解している。また、安全保障のジレンマのために軍縮が進めにくくなっている構造や核廃絶に向けた運動が盛り上がるなか、数々の軍縮条約が締結されていった経緯について理解する。 ・戦後の主権回復と国際社会への復帰についてその経緯を理解する。 ・アジア諸国との国交正常化が進められる一方、賠償のあり方をめぐって裁判が繰り返されるなど、根本的な解決には至っていない現状を理解する。</p> <p>教材： ・教科書 ・プレゼンテーションツール ・一人1台端末の活用 等</p>	<p>な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現できる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 多面的・多角的な考察や深い理解を通して、国家主権、領土（領海、領空を含む。）、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとする意識をもつ。</p>	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
3 学 期	A 国際経済の動向と課題	<p>指導項目： ・自由貿易のメリットと国際分業の利益について、多国籍企業の展開と合わせて比較生産費説をもとに理解する。 ・保護貿易が提唱される理由や近年では先進国においても保護貿易的な動きがみられることを理解する。 ・円高や円安が日本経済に与える影響について、輸入業者や輸出業者の具体的な取引をもとに理解する。 ・IMFとGATTに代表される国際経済体制及び固定為替相場制から変動為替相場制へと移行した歴史的な経緯について、その概要を理解する。 ・EUを例として、FTAやEPAやその他地域でどのように経済統合されていったかを理解する。 ・グローバル化した世界において、多国籍企業の存在が大きくなっていることを理解する。 ・資源産出国が自国の権益を保護しようとした歴史的な経緯について理解する。また発展途上国の中でも、高い成長を記録した国がある一方、絶対的な貧困に悩む国がある現状を理解する。 ・BRICSともいわれる新興国の中でも、とくに中国が世界的な影響力を強めており、一帯一路構想の下で一大経済圏を形成しようとしていることを理解する。</p> <p>教材： ・教科書 ・プレゼンテーションツール ・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識及び技能】 経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、世界経済がより緊密に結び付き、経済活動が世界的な規模で自由に行われていること、一国の経済政策や経済活動が他国にも影響を与えるなど、国際社会において相互依存関係が一層深まっていること、国際社会における貧困や格差が解消されていない状況やこれらの解決が地球的な課題であることについて理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する力を身に付ける。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとする意識をもつ。</p>	○	○	○	10
	B 持続可能な社会をめざして	<p>指導事項 ・第1部で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用するとともに、第1部及び第2部で習得した知識及び技能を活用する。</p> <p>・教材 ・プレゼンテーションツール ・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【思考力、判断力、表現力等】 地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述する力を身に付ける。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 この科目のまとめとして位置付け、社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、第1部で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用するとともに、第1部及び第2部で扱った課題などへの関心を高める。</p>		○	○	5
	定期考査			○	○		1
合計							70

高等学校 令和5年度（2学年用）教科 地理歴史 科目 歴史総合

教科：地理歴史 科目：歴史総合 単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1組～ 4組

教科担当者：（1組：久保寺）（2組：久保寺）（3組：久保寺）（4組：久保寺）

使用教科書：（明解 歴史総合）

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】世界および日本の地理歴史を理解するとともに、様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】地理歴史に関わる事象を考察したり、課題の解決に向けて構想したり、説明・議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】地理歴史に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

科目 歴史総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界とそれの中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。	近現代の歴史的事象の意味や意義、特色などを多面的・多角的に考察したり、課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、わが国の文化を愛し、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 近代化への始動 【知識及び技能】18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会やヨーロッパの近代市民社会を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】18世紀のアジア諸国とヨーロッパ諸国の経済が互いに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】本単元の学習内容に関心を持たせ、主体的に学習する態度を養う。	・指導事項 ヨーロッパの海外進出と市民社会 清の繁栄 東アジア諸国間の貿易 江戸時代の日本の対外政策 江戸時代の社会と生活 ・教材 教科書、資料集、ワークブック、 スタディサプリ	【知識・技能】18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会やヨーロッパの近代市民社会を理解している。 【思考・判断・表現】8世紀のアジア諸国とヨーロッパ諸国の経済が互いに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】前近代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。	○	○	○	3
	B 欧米の市民革命と国民国家の形成 【知識及び技能】産業革命と交通・通信手段の革新、工業化と世界史上の形成、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】産業革命や国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、欧米諸国の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】本単元の学習内容に関心を持たせ、主体的に学習する態度を養う。	・指導事項 イギリス産業革命 アメリカ独立革命 フランス革命とナポレオン ウィーン体制 19世紀のイギリスとフランス イタリア・ドイツの統一 東方問題と19世紀のロシア アメリカの発展と分裂 世界市場の形成 ・教材 教科書、資料集、ワークブック、 スタディサプリ	【知識・技能】日本の開国、明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などと関連づけて、立憲体制と国民国家の形成を理解している。 【思考・判断・表現】産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】19世紀半ばのアジアと世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。	○	○	○	6
	定期考査				○	○	
	C アジアの変容と日本の近代化 【知識及び技能】日本の開国、明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などと関連づけて、立憲体制と国民国家の形成を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】本単元の学習内容に関心を持ち、主体的に学習している。	・指導事項 イスラーム世界の改革と再編 南アジア・東南アジアの改革と再編 アヘン戦争の衝撃 ゆらぐ幕藩体制 開国 幕末政局と社会変動 新政府の成立と諸改革 富国強兵と文明開化 近代的な国家関係と国境・領土の画定 自由民権運動の高まり 立憲国家の成立 ・教材 教科書、資料集、ワークブック、 スタディサプリ	【知識・技能】産業革命と交通・通信手段の革新、工業化と世界史上の形成、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解している。 【思考・判断・表現】産業革命や国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、欧米諸国の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】近代ヨーロッパの歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。	○	○	○	8

	定期考査						○	○	1	
2 学 期	D帝国主義の時代 ・列強の進出と植民地の形成，日清・日露戦争などを基に，列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解させる。 ・帝国主義政策の背景，帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して，主題を設定し，アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，帝国主義政策の特徴，列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し，表現させる。 ・本単元の内容に関心を持たせ，主体的に学習する態度を養う。	・指導事項 帝国主義と世界分割 帝国主義期の欧米社会 条約改正 日清戦争 日露戦争から韓国併合へ 日本の産業革命と社会問題 アジア諸民族の独立運動・立憲革命 ・教材 教科書，資料集，ワークブック，スタディサプリ	・列強の進出と植民地の形成，日清・日露戦争などを基に，列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解している。 ・帝国主義政策の背景，帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して，主題を設定し，アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，帝国主義政策の特徴，列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し，表現している。 ・19世紀末～20世紀初頭の世界の歴史の変化に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。				○	○	○	5
	定期考査						○	○	1	
	E第一次世界大戦と大衆社会 ・第一次世界大戦の展開，日本やアジアの経済成長，ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭，ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に，総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解させる。 ・大衆の政治参加と女性の地位向上，大正デモクラシーと政党政治，大量消費社会と大衆文化，教育の普及とマスメディアの発達などを基に，大衆社会の形成と社会運動の広がり理解させる。 ・第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響，日本の参戦の背景と影響などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，関連付けたりするなどして，第一次世界大戦の性格と惨禍，日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察，表現させる。 ・第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，関連付けたりするなどして，第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察，表現させる。	・指導事項 緊迫する国際関係 第一次世界大戦 ロシア革命とシベリア出兵 大戦景気と米騒動 ヴェルサイユ体制とワシントン体制 西アジア・南アジアの民族運動 東アジア・東南アジアの民族運動 戦間期の欧米 広がる社会運動と普通選挙の実現 政党内閣の時代 ・教材 教科書，資料集，ワークブック，スタディサプリ	・第一次世界大戦の展開，日本やアジアの経済成長，ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭，ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に，総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。 ・大衆の政治参加と女性の地位向上，大正デモクラシーと政党政治，大量消費社会と大衆文化，教育の普及とマスメディアの発達などを基に，大衆社会の形成と社会運動の広がり理解している。 ・第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響，日本の参戦の背景と影響などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，関連付けたりするなどして，第一次世界大戦の性格と惨禍，日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し，表現している。 ・第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，関連付けたりするなどして，第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し，表現している。 ・1910～1920年代の歴史の変化に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。				○	○	○	6
F経済危機と第二次世界大戦 ・世界恐慌，ファシズムの伸張，日本の対外政策などを基に，国際協調体制の動揺を理解させる。 ・第二次世界大戦の展開，国際連合と国際経済体制，冷戦の始まりとアジア諸国の動向，戦後改革と日本国憲法の制定，平和条約と日本の独立の回復などを基に，第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解させる。 ・経済危機の背景と影響，国際秩序や政治体制の変化などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，各国の世界恐慌への対応の特徴，国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し，表現させる。 ・第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響，第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，第二次世界大戦の性格と惨禍，第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活，日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し，表現させる。	・指導事項 世界恐慌 ファシズムの時代 満州事変と軍部の台頭 日中戦争 第二次世界大戦とアジア太平洋戦争 戦争と民衆 敗戦 国際連合と戦後世界 戦後の占領の始まり 民主化と日本国憲法 冷戦の開始 朝鮮戦争と日本 ・教材 教科書，資料集，ワークブック，スタディサプリ	・世界恐慌，ファシズムの伸張，日本の対外政策などを基に，国際協調体制の動揺を理解している。 ・第二次世界大戦の展開，国際連合と国際経済体制，冷戦の始まりとアジア諸国の動向，戦後改革と日本国憲法の制定，平和条約と日本の独立の回復などを基に，第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。 ・経済危機の背景と影響，国際秩序や政治体制の変化などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，各国の世界恐慌への対応の特徴，国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し，表現している。 ・第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響，第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，第二次世界大戦の性格と惨禍，第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活，日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し，表現している。 ・第二次世界大戦前後の世界の歴史の変化に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。				○	○	○	14	

			する態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
	定期考査			○	○		1
3 学 期	G冷戦と脱植民地化 ・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理、日本の高度経済成長などを基に、国際政治の変容を理解させる。 ・地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、日本の高度経済成長の背景と影響、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察、表現させる。	・指導事項 冷戦対立の推移 植民地の独立と第三世界の出現 米ソ両陣営の動揺 日本の国際社会復帰と高度経済成長 ・教材 教科書、資料集、ワークブック、スタディサプリ	・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理、日本の高度経済成長などを基に、国際政治の変容を理解している。 ・地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、日本の高度経済成長の背景と影響、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察、表現している。 ・1950～1970年代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	○	○	○	2
	H多極化する世界 ・石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解させる。 ・アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現させる。	・指導事項 石油危機と世界経済 緊張緩和から冷戦の終結へ 地域協力の進展 日本の経済大国化 ・教材 教科書、資料集、ワークブック、スタディサプリ	・石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解している。 ・アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較するなどして、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・1989年以降の世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。	○	○	○	2
	Iグローバル化と現代世界 冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解させる。 ・冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現させる。	・指導事項 冷戦体制の終結 地域紛争と世界経済 グローバルな認識へ ・教材 教科書、資料集、ワークブック、スタディサプリ	・冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解している。 ・冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。	○	○	○	2
	定期考査			○	○		1
							合計
							50

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 地理歴史 科目 歴史総合

教科： 地理歴史 科目： 歴史総合 単位数： 3 単位
 対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 6 組
 教科担当者： （1組：鈴木） （2組：中西） （3組：鈴木） （4組：中西） （5組：鈴木） （6組：中西）
 使用教科書： （詳述 歴史総合）

教科 地理歴史 の目標：
 【知識及び技能】世界および日本の地理歴史を理解するとともに、様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
 【思考力、判断力、表現力等】地理歴史に関わる事象を考察したり、課題の解決に向けて構想したり、説明・議論したりする力を養う。
 【学びに向かう力、人間性等】地理歴史に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

科目 歴史総合	の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
世界とその他の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。	近現代の歴史的事象の意味や意義、特色などを多面的・多角的に考察したり、課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
	【学びに向かう力、人間性等】
	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、わが国の文化を愛し、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 近代化への始動 【知識及び技能】18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会やヨーロッパの近代市民社会を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】18世紀のアジア諸国とヨーロッパ諸国の経済が互いに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】本単元の学習内容に関心を持たせ、主体的に学習する態度を養う。	・指導事項 ヨーロッパの海外進出と市民社会 清の繁栄 東アジア諸国間の貿易 江戸時代の日本の対外政策 江戸時代の社会と生活 ・教材 教科書、資料集、ワークブック、 スタディサブリ	【知識・技能】18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会やヨーロッパの近代市民社会を理解している。 【思考・判断・表現】8世紀のアジア諸国とヨーロッパ諸国の経済が互いに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】前近代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。	○	○	○	5
	B 欧米の市民革命と国民国家の形成 【知識及び技能】産業革命と交通・通信手段の革新、工業化と世界史上の形成、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】産業革命や国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、欧米諸国の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】本単元の学習内容に関心を持たせ、主体的に学習する態度を養う。	・指導事項 イギリス産業革命 アメリカ独立革命 フランス革命とナポレオン ウィーン体制 19世紀のイギリスとフランス イタリア・ドイツの統一 東方問題と19世紀のロシア アメリカの発展と分裂 世界市場の形成 ・教材 教科書、資料集、ワークブック、 スタディサブリ	【知識・技能】日本の開国、明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などと関連づけて、立憲体制と国民国家の形成を理解している。 【思考・判断・表現】産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】19世紀半ばのアジアと世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。	○	○	○	9
	定期考査				○	○	
	C アジアの変容と日本の近代化 【知識及び技能】日本の開国、明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などと関連づけて、立憲体制と国民国家の形成を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】本単元の学習内容に関心を持ち、主体的に学習している。	・指導事項 イスラーム世界の改革と再編 南アジア・東南アジアの改革と再編 アヘン戦争の衝撃 ゆらぐ幕藩体制 開国 幕末政局と社会変動 新政府の成立と諸改革 富国強兵と文明開化 近代的な国家関係と国境・領土の画定 自由民権運動の高まり 立憲国家の成立 ・教材 教科書、資料集、ワークブック、 スタディサブリ	【知識・技能】産業革命と交通・通信手段の革新、工業化と世界史上の形成、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解している。 【思考・判断・表現】産業革命や国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、欧米諸国の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】近代ヨーロッパの歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。	○	○	○	11

	定期考査							○	○	1	
2 学 期	D帝国主義の時代 ・列強の進出と植民地の形成，日清・日露戦争などを基に，列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解させる。 ・帝国主義政策の背景，帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して，主題を設定し，アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，帝国主義政策の特徴，列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し，表現させる。 ・本単元の内容に関心を持たせ，主体的に学習する態度を養う。	・指導事項 帝国主義と世界分割 帝国主義期の欧米社会 条約改正 日清戦争 日露戦争から韓国併合へ 日本の産業革命と社会問題 アジア諸民族の独立運動・立憲革命 ・教材 教科書，資料集，ワークブック，スタディサプリ	・列強の進出と植民地の形成，日清・日露戦争などを基に，列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解している。 ・帝国主義政策の背景，帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して，主題を設定し，アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，帝国主義政策の特徴，列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し，表現している。 ・19世紀末～20世紀初頭の世界の歴史の変化に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。					○	○	○	8
	定期考査							○	○	1	
	E第一次世界大戦と大衆社会 ・第一次世界大戦の展開，日本やアジアの経済成長，ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭，ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に，総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解させる。 ・大衆の政治参加と女性の地位向上，大正デモクラシーと政党政治，大量消費社会と大衆文化，教育の普及とマスメディアの発達などを基に，大衆社会の形成と社会運動の広がり理解させる。 ・第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響，日本の参戦の背景と影響などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，関連付けたりするなどして，第一次世界大戦の性格と惨禍，日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察，表現させる。 ・第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，関連付けたりするなどして，第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察，表現させる。	・指導事項 緊迫する国際関係 第一次世界大戦 ロシア革命とシベリア出兵 大戦景気と米騒動 ヴェルサイユ体制とワシントン体制 西アジア・南アジアの民族運動 東アジア・東南アジアの民族運動 戦間期の欧米 広がる社会運動と普通選挙の実現 政党内閣の時代 ・教材 教科書，資料集，ワークブック，スタディサプリ	・第一次世界大戦の展開，日本やアジアの経済成長，ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭，ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に，総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。 ・大衆の政治参加と女性の地位向上，大正デモクラシーと政党政治，大量消費社会と大衆文化，教育の普及とマスメディアの発達などを基に，大衆社会の形成と社会運動の広がり理解している。 ・第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響，日本の参戦の背景と影響などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，関連付けたりするなどして，第一次世界大戦の性格と惨禍，日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し，表現している。 ・第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，関連付けたりするなどして，第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し，表現している。 ・1910～1920年代の歴史の変化に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。					○	○	○	10
F経済危機と第二次世界大戦 ・世界恐慌，ファシズムの伸張，日本の対外政策などを基に，国際協調体制の動揺を理解させる。 ・第二次世界大戦の展開，国際連合と国際経済体制，冷戦の始まりとアジア諸国の動向，戦後改革と日本国憲法の制定，平和条約と日本の独立の回復などを基に，第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解させる。 ・経済危機の背景と影響，国際秩序や政治体制の変化などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，各国の世界恐慌への対応の特徴，国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し，表現させる。 ・第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響，第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，第二次世界大戦の性格と惨禍，第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活，日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し，表現させる。	・指導事項 世界恐慌 ファシズムの時代 満州事変と軍部の台頭 日中戦争 第二次世界大戦とアジア太平洋戦争 戦争と民衆 敗戦 国際連合と戦後世界 戦後の占領の始まり 民主化と日本国憲法 冷戦の開始 朝鮮戦争と日本 ・教材 教科書，資料集，ワークブック，スタディサプリ	・世界恐慌，ファシズムの伸張，日本の対外政策などを基に，国際協調体制の動揺を理解している。 ・第二次世界大戦の展開，国際連合と国際経済体制，冷戦の始まりとアジア諸国の動向，戦後改革と日本国憲法の制定，平和条約と日本の独立の回復などを基に，第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。 ・経済危機の背景と影響，国際秩序や政治体制の変化などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，各国の世界恐慌への対応の特徴，国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し，表現している。 ・第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響，第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，第二次世界大戦の性格と惨禍，第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活，日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し，表現している。 ・第二次世界大戦前後の世界の歴史の変化に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。					○	○	○	14	

			する態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
	定期考査			○	○		1
3 学 期	G冷戦と脱植民地化 ・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理、日本の高度経済成長などを基に、国際政治の変容を理解させる。 ・地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、日本の高度経済成長の背景と影響、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察、表現させる。	・指導事項 冷戦対立の推移 植民地の独立と第三世界の出現 米ソ両陣営の動揺 日本の国際社会復帰と高度経済成長 ・教材 教科書、資料集、ワークブック、スタディサプリ	・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理、日本の高度経済成長などを基に、国際政治の変容を理解している。 ・地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、日本の高度経済成長の背景と影響、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察、表現している。 ・1950～1970年代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	○	○	○	4
	H多極化する世界 ・石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解させる。 ・アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現させる。	・指導事項 石油危機と世界経済 緊張緩和から冷戦の終結へ 地域協力の進展 日本の経済大国化 ・教材 教科書、資料集、ワークブック、スタディサプリ	・石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解している。 ・アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較するなどして、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・1989年以降の世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。	○	○	○	4
	Iグローバル化と現代世界 冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解させる。 ・冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現させる。	・指導事項 冷戦体制の終結 地域紛争と世界経済 グローバルな認識へ ・教材 教科書、資料集、ワークブック、スタディサプリ	・冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解している。 ・冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。	○	○	○	3
	定期考査			○	○		1
							合計
							69

東京都立紅葉川高等学校 令和5年度 教科(地歴) 科目(世界史B) 年間授業計画

教科:(地歴)科目:(世界史B) 単位数(4) 対象:(第3学年1組)

教科担当者:(1組:中西 ㊟)

使用教科書:(詳説 世界史B)

使用教材 :(詳説世界史B グローバルワイド最新世界史図表 総合マスター)

	指導内容	科目 世界史B の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
4月	近代ヨーロッパ世界の形成 1. ヨーロッパ世界の拡大	○大航海時代の背景とその影響を理解することができる。	教科書・図表・プリントを参考にし、ノートがきちんと作成されているか。小テストなどで、理解度を確認する。	3
	2. ルネサンス	○ルネサンスの社会的背景と当時の人間の生き方について正しく理解することができる。		3
	3. 宗教改革	○ルター・カルヴァンの主張と、拡大、対抗宗教改革について理解することができる。		3
5月	4. ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成	○イタリア戦争と主権国家体制について正確に理解できる。	教科書・図表・プリントを参考にし、ノートがきちんと作成されているか。小テストなどで、理解度を確認する。	1
	中間考査	○ヨーロッパの近代化について、その要素を正確につかむことができる。		1
	答案返却			
	4. ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成	○オランダの独立・イギリスの海外進出、フランスの宗教内乱と絶対王政について理解することができる。		2
6月	近世ヨーロッパ世界の展開 1. ヨーロッパ世界の拡大	○重商主義と啓蒙専制主義による各国の近代化を特色を踏まえ理解することができる。、	教科書・図表・プリントを参考にし、ノートがきちんと作成されているか。小テストなどで、理解度を確認する。	3
	2. ヨーロッパ諸国の海外進出	○各国の植民地経営・抗争の様子を理解することができる。また、奴隷貿易とヨーロッパ資本主義との関係を考察することができる。		2
	3. 17～18世紀ヨーロッパの文化と社会	○18世紀の科学革命や啓蒙思想について、正しく理解できる。		1
	近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立:1. 産業革命 2. アメリカ独立革命 3. フランス革命とナポレオン	○近代ヨーロッパ・アメリカ世界の形成までの経過を理解することができる。		7
	欧米における近代国民国家の発展	○ウィーン体制の保守的な姿勢を理解することができる。		
	期末考査	○近世ヨーロッパと近代ヨーロッパの形成を正しくつかむことができる。	教科書・図表・プリントを参考にし、ノートがきちんと作成されているか。小テストなどで、理解度を確認する。	1

	指導内容	科目 世界史B の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
7月	答案返却			
	欧米における近代国民国家の発展	○ウィーン体制の動揺と1848年の革命について、きちんと理解することができる。		4
9月	欧米における近代国民国家の発展 2. ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生	○ヨーロッパの各国の再編の、特色をつかむことができる。	教科書・図表・プリントを参考にし、ノートがきちんと作成されているか。小テストなどで、理解度を確認する。	4
	欧米における近代国民国家の発展 3. 南北アメリカの発展 4. 19世紀欧米の文化	○西部開拓と南北戦争との関係、その後のアメリカの発展の様子を理解することができる。また近代諸科学の発展を正しく理解できる。		4
	アジア諸地域の動揺 :1. オスマン帝国の動揺と西アジアの変容	○オスマン帝国の衰退から、改革・支配地域の目覚めについて正しく理解できる。		3
	アジア諸地域の動揺 :2. 南アジア・東南アジアの植民地化	○インドと東南アジアの植民地化と反乱について、正しく理解できる。		3
	アジア諸地域の動揺 :3. 東アジアの激動	○清朝へのヨーロッパ・日本の進出について、正しく理解できる。		3
10月	帝国主義とアジアの民族運動:1. 帝国主義と列強の展開	○第2次産業革命と帝国主義の関係、各国の帝国主義を正確に理解できる。	教科書・図表・プリントを参考にし、ノートがきちんと作成されているか。小テストなどで、理解度を確認する。	3
	帝国主義とアジアの民族運動:2. 世界分割と列強対立	○アフリカ・太平洋・ラテンアメリカの分割や従属について、正しく理解することができる。		2
	中間考査	○2学期の学習範囲を押さえることができる。		1
	答案返却			
11月	帝国主義とアジアの民族運動:3. アジア諸国の改革と民族運動	○日本と中国の関係、アジアの諸改革について理解することができる。		4
	帝国主義とアジアの民族運動:3. アジア諸国の改革と民族運動	○日本と中国の関係、アジアの諸改革について理解することができる。	教科書・図表・プリントを参考にし、ノートがきちんと作成されているか。小テストなどで、理解度を確認する。	4
	2つの世界大戦:1. 第1次世界大戦とロシア革命	○第1次世界大戦の原因・経過・結果とロシア革命の経緯を正しく理解することができる。		4
	2つの世界大戦:2. ヴェルサイユ体制下の欧米諸国	○ヴェルサイユ体制の問題点と、当時の各国の事情を正しく理解することができる。		4
	2つの世界大戦:3. アジア・アフリカ地域の民族運動	○アジアの民族運動と日本の動向を正しく理解することができる。		4

【スタンダード計画報告様式2】

	指導内容	科目 世界史B の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
1 2 月	2つの世界大戦:4. 世界恐慌とファシズム諸国の侵略	○各国の恐慌対策と、ファシズム諸国の動向を正しく理解することができる。	教科書・図表・プリントを参考にし、ノートがきちんと作成されているか。小テストなどで、理解度を確認する。	2
	期末考査	○2学期の学習範囲を押さえることができる。		1
	答案返却			
	2つの世界大戦:5. 第2次世界大戦	○ナチスの動き・太平洋戦争の経過・大戦の結果について、正しく理解することができる。		3
	冷戦と第三世界の独立:1. 戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立	○国際連合の成立と冷戦の構造を、およそ理解することができる。	教科書・図表・プリントを参考にし、ノートがきちんと作成されているか。小テストなどで、理解度を確認する。	2
1 月				
2 月				

指導内容	科目 世界史B の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
3月			

東京都立紅葉川高等学校 令和5年度 教科(地歴) 科目(世界史演習) 年間授業計画

教科:(地歴)科目:(世界史B) 単位数(2) 対象:(第3学年1組)

教科担当者:(1組:中西 ㊟)

使用教科書:(詳説 世界史B)

使用教材:(詳説世界史B グローバルワイド最新世界史図表 総合マスター)

	指導内容	科目 世界史演習 の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
4月	1 オリентと地中海世界	古代オリент世界が統一されるまでを理解する。	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	6
	2 オリентと地中海世界	古代ギリシア世界の民主政体の流れを理解する。	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	
	3 オリентと地中海世界	ローマの共和政・内乱の1世紀を理解する。	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	
5月	1 アジア・アメリカの古代文明	古代インドの変遷・文化を理解できる。	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	8
	2 アジア・アメリカの古代文明	中国文明の発生・初期王朝について理解できる。	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	
	1内陸アジア世界	秦・漢代の政治・文化について理解できる。	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	
	2東アジア世界の形成	アメリカの古代文明について理解できる。	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	
6月	内陸アジア世界・東アジア世界の形成	唐代の社会・文化について理解できる。	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	8
	イスラーム世界の形成と発展	イスラーム世界い生・帝国の分裂について理解できる。	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	
	1ヨーロッパ世界の形成と発展	ヨーロッパの風土とカール大帝までの変遷を理解できる。	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	
	2ヨーロッパ世界の形成と発展	フランク王国の分裂・教会の権威について理解できる。	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	
	3ヨーロッパ世界の形成と発展	ビザンツ帝国・十字軍について理解できる。	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	

	指導内容	科目 世界史演習 の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
7月	4ヨーロッパ世界の形成と発展	封建社会の崩壊・百年戦争について理解できる。	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	8
	内陸アジア世界の展開	宋代の社会と経済について理解できる。	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	
	東アジア世界の展開	モンゴル・元の支配について理解できる。	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	
9月	1アジア諸地域の繁栄	明代の社会と文化について理解できる。	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	8
	1アジア諸地域の繁栄	清朝の統治について理解できる。	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	
	1近世ヨーロッパ世界の展開	大航海時代の契機・影響について理解できる。	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	
	2近世ヨーロッパ世界の展開	ルネサンス・科学技術の発展について理解できる。	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	
10月	3近世ヨーロッパの形成	イア	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	8
	4ヨーロッパ世界の形成と発展	宗教内乱・イギリス議会政治の成立について理解できる。	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	
	1近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	ルイ14世の時代・奴隷貿易について理解できる。	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	
	2近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	産業革命までの変遷を理解できる。	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	
11月	3近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	アメリカの独立戦争について理解できる。	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	8
	1近代国民国家の発展	フランス革命について理解できる。	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	
	2近代国民国家の発展	ナポレオンからウィーン会議までの変遷を理解できる。	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	
	3近代国民国家の発展	イタリア・ドイツの統一について理解できる。	提出物・プリントの取り組みや、小テストの理解度で評価する。	

【スタンダード計画報告様式2】

指導内容	科目 世界史演習 の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
3月			

東京都立紅葉川高等学校 令和5年度 教科(地歴科) 科目(日本史B) 年間授業計画

教科:(地歴科) 科目:(日本史B) 単位数(4) 対象:(第3学年 2・3・4組)

教科担当者:(増田 ㊟)

使用教科書:(詳説 日本史B)

使用教材:(最新日本史図表、ゼミナール日本史、日本史用語集 改訂版 A・B共用)

	指導内容	科目日本史Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
4月	幕藩体制の確立	桃山文化の特徴について理解させる。	大名や豪商による豪華絢爛な文化の特徴をつかんでいる。	1
			授業中の態度、定期考査や提出物の状況	
	幕藩体制の成立、禁教令と鎖国についてについて理解させる。	関ヶ原合戦を経て徳川家康が征夷大将軍になり、幕藩体制が成立した経緯や、禁教令と鎖国にした背景を理解している。	6	
授業中の態度、定期考査や提出物の状況				
幕藩社会の構造について理解させる。	近世の身分制や村と町について理解している。	5		
		授業中の態度、定期考査や提出物の状況		
幕藩体制の展開	幕政が安定し、文治政治へ変化したことを理解させる。	17世紀中ごろには朱子学を利用した文治政治に転換されたことを理解している。	5	
		授業中の態度、定期考査や提出物の状況		
5月	経済の発展	元禄時代以降、交通や流通網が整備され、経済が発展したことを理解させる。	交通や流通網の整備や経済の仕組みを理解している。	5
			授業中の態度、定期考査や提出物の状況	
元禄文化	三都の発展とともに町人文化が成立したことを理解させる。	元禄文化の特徴を理解している。	3	
		授業中の態度、定期考査や提出物の状況		
6	幕政改革	享保の改革と田沼時代の政治、および宝暦天明期の文化について理解させる。	財政再建をめぐって諸改革がなされたこと、それを機に宝暦・天明期の文化が成立したことを理解している。	6
			授業中の態度、定期考査や提出物の状況	
宝暦・天明期の文化	宝暦天明期の文化の特徴について理解させる。	浮世絵の発達など、宝暦・天明期の文化の特徴を理解している。	2	
		授業中の態度、定期考査や提出物の状況		

【スタンダード計画報告様式2】

	指導内容	科目日本史B の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
月	幕府の衰退と近代への道	寛政の改革と天保の改革、および化政文化について理解させる。	改革により農村復興や海外情勢への対応の努力がなされたことを理解している。	6
			授業中の態度、定期考査や提出物の状況	
	化政文化	化政文化の特徴について理解させる。	国学や洋学の発達など化政文化の特徴を理解している。	2
			授業中の態度、定期考査や提出物の状況	
7月	近代国家の成立	開国と幕末の動乱を経て新政府が成立する過程を理解させる。	外国の接近で開国を迫られて動乱が始まり、江戸幕府が倒されて新政府が成立したことを理解させる。	12
			授業中の態度、定期考査や提出物の状況	
9月	近代国家の成立	明治維新と近代化の諸改革について理解させる。	明治維新と富国強兵のために諸政策がなされたことについて理解させる。	6
			授業中の態度、定期考査や提出物の状況	
		自由民権と立憲国家の成立について理解させる。	自由民権運動の結果とアジア初の近代的立憲国家に変化したことを理解させる。	5
		授業中の態度、定期考査や提出物の状況		
		日清・日露戦争と産業革命について理解させる。	日清・日露戦争を通して日本が列強の仲間入りしたことを理解させる。	5
			授業中の態度、定期考査や提出物の状況	
	二つの世界大戦とアジア	大正時代の政治と文化についてその特徴を理解させる。	第一次世界大戦以後に大衆文化が成立したことを理解させる。	5
			授業中の態度、定期考査や提出物の状況	
		恐慌の時代から日中戦争に至る状況を理解させる。	1920年代の恐慌の打開策をめぐって軍国主義化が進み、日中戦争に至ることを理解させる。	5

【スタンダード計画報告様式2】

	指導内容	科目日本史B の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
10月			授業中の態度、定期考査や提出物の状況	
		太平洋戦争から敗戦に至る状況を理解させる。	日中戦争から対米関係が悪化して太平洋戦争がはじまり、敗戦に至る状況を理解させる。 授業中の態度、定期考査や提出物の状況	6
11月	占領下の日本	占領下の民主化改革と日本の独立について理解させる。	占領下の民主化改革と日本の独立が冷戦に大きな影響を受けていたことを理解させる。 授業中の態度、定期考査や提出物の状況	5
	戦後政治の展開	55年体制や高度経済成長について理解させる。	55年体制や高度経済成長とその背景を理解させる。 授業中の態度、定期考査や提出物の状況	6
		石油危機以降の安定成長の時代の社会について理解させる。	石油危機を克服して経済大国になるが、バブル経済を経て新たな課題を抱えるようになったことを理解させる。 授業中の態度、定期考査や提出物の状況	5
	問題演習	センター試験や私大入試対策	授業中の態度、定期考査や提出物の状況	12
12月				
1月	問題演習	センター試験や私大入試対策	授業中の態度、定期考査や提出物の状況	12

【スタンダード計画報告様式2】

	指導内容	科目日本史B の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
2月	問題演習	センター試験や私大入試対策	授業中の態度、定期考査や提出物の状況	12
3月				

東京都立紅葉川高等学校 令和5年度 教科(地理歴史) 科目(日本史演習) 年間授業計画

教科:(地歴科) 科目:(日本史B) 単位数(2) 対象:(第3学年 2・3・4組)

教科担当者:(増田 ㊟)

使用教科書:(詳説日本史B 山川出版社)

使用教材:(最新日本史図表、ゼミナール日本史、日本史用語集 改訂版 A・B共用)

	指導内容	科目 日本史演習 の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
4月	文化の始まり	日本列島と日本人、旧石器時代人の生活	日本列島の形成と旧石器時代の社会や文化について理解させる。	6
	農耕社会の成立	弥生文化の成立、弥生人の生活	水稲耕作や金属器、弥生土器の使用に特徴付けられる弥生文化について理解させる。	
	古墳とヤマト政権	古墳の出現とヤマト政権、前期・中期の古墳、古墳文化の変化、古墳時代の人びとの生活、古墳の終末 ヤマト政権と政治制度	古墳の出現とヤマト政権との関係を理解させる。	
			授業中の態度、定期考査や提出物の状況を見て、評価する。	
5月	飛鳥の朝廷	東アジアの動向とヤマト政権の発展、飛鳥の朝廷と文化	大陸文化を取り入れながら推古天皇・厩戸王・蘇我氏らのもとで国家組織が形成されたことを理解している。	6
	律令国家への道	大化改新、律令国家への道、白鳳文化	律令政治の成立と白鳳文化の特徴を理解している。	
	奈良時代の政治・外交と文化	遣唐使によって唐の先進文化を入れて奈良の平城京を中心に仏教を取り入れた政治が行われたことを理解している。	遣唐使によって唐の先進文化を入れて奈良の平城京を中心に仏教を取り入れた政治が行われたことを理解している。	
	平安時代の政治と社会	平安時代の政治の特徴、摂関政治、荘園制等や弘仁貞観文化、国風文化等を学ぶ。	平安時代の政治の特徴、摂関政治、荘園制等や弘仁貞観文化、国風文化等について理解している。	
	院政と平氏の台頭	院政の開始、院政期の社会	院政期の特徴を理解させる。	
6月	院政と平氏の台頭	院政の開始、院政期の社会	院政期の特徴を理解させる。	6
	鎌倉時代の政治と文化	鎌倉幕府の成立や、武家社会の成立、政治と文化の特徴を学ぶ。	鎌倉時代の政治と文化の特徴を理解している。	
	室町幕府と室町文化	南北朝の動乱、室町幕府、室町文化について学ぶ。	南北朝の動乱、室町幕府、室町文化の『特徴』について理解している。	
			授業中の態度、定期考査や提出物の状況を見て、評価する。	

【スタンダード計画報告様式2】

	指導内容	科目 日本史演習 の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
7月	戦国大名	戦国大名と支配の特徴、社会や文化の状況を学ぶ。	戦国大名と支配の特徴、社会の状況を理解している。	6
	織豊政権	織豊政権と近世社会への変化、社会や文化の状況を学ぶ。	織豊政権と近世社会への変化、社会や文化の状況について理解している。	
			授業中の態度、定期考査や提出物の状況を見て、評価する。	
8月				6
9月	幕政体制の成立	江戸幕府の成立、幕藩体制、幕府の機構、朝廷と寺社、文治政治、江戸時代の経済、江戸時代の文化を学ぶ。	江戸幕府の成立、幕藩体制、幕府の機構、朝廷と寺社、文治政治、江戸時代の経済、江戸時代の文化について理解している。	8
	幕政改革と幕府の衰退	幕政改革と幕府の衰退、列強の接近について学ぶ。	幕政改革と幕府の衰退、列強の接近とその背景について理解している。	
			授業中の態度、定期考査や提出物の状況を見て、評価する。	
10月	開国と幕末の動乱	開国と幕末の動乱の背景を学ぶ。	開国と幕末の動乱の背景を理解している。	8
	明治維新と富国強兵	明治維新と富国強兵の様相を学ぶ。	明治維新と富国強兵の様相を理解している。	
	日清・日露戦争	産業革命や日清・日露戦争を経て日本が列強の一員となる様相を学ぶ。	産業革命や日清・日露戦争を経て日本が列強の一員となる様相を理解している。	
			授業中の態度、定期考査や提出物の状況を見て、評価する。	

【スタンダード計画報告様式2】

指導内容	科目 日本史演習 の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数	
1 1 月	第一次世界大戦と日本	大正政変、日本の中国進出、大戦景気	第一次大戦が日本に与えた影響について理解している。	8
	ワシントン体制	パリ講和会議、ワシントン会議と協調外交	協調外交等について理解している。	
	軍部の台頭	二、二六事件	二、二六事件を通じて軍部支配が強まっていった様子を理解している。	
	第二次世界大戦	日中戦争、太平洋戦争の始まり	日中戦争が泥沼化する中で日米関係が悪化し、太平洋戦争に突入していく様子を理解している。	
			授業中の態度、定期考査や提出物の状況を見て、評価する。	
1 2 月	現代の日本と世界	民主化から経済復興へ	東西冷戦が日本にどのような影響を与えたか理解させる。	6
		複雑な環境の中での独立	東西冷戦が日本にどのような影響を与えたか理解させる。	
		戦後史総合・センター演習	日米安全保障条約～現在までの内容について理解させる。	
			授業中の態度、定期考査や提出物の状況を見て、評価する。	
1 月	大学受験対策	センター試験対策	センター試験、大学受験で一定の成績をとれる。	6

指導内容	科目 日本史演習 の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
2月			
3月			

東京都立紅葉川高等学校 令和5年度 教科(公民) 科目(政治・経済) 年間授業計画

教科:(公民) 科目:(政治・経済) 単位数(4) 対象:(第3学年 1・5・6組)

教科担当者:(小川峻 ㊟)

使用教科書:(最新政治・経済 新訂版)

使用教材 :(蔭山克英の政治・経済が面白いほどわかる本 改訂4版)

	指導内容	科目 政治経済 の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
4月	第1章 現代国家と民主政治 1民主政治の成立 2民主政治の基本原則	・近代の民主政治が成り立ってきた経緯と、民主政治の基本原則としての社会契約説について理解することができる。 ・市民革命の目的が何だったか理解できる。	・近代民主政治が成り立ってきた17世紀以後の歴史を理解しているか。 ・民主政治の基本原則としての国民主権・議会制度・人権思想について理解し、考察できるか。	12
	3民主政治のしくみと課題	・民主主義が国民主権の原理の下で、国民の参政権に保障されて維持されていることが理解できる。 ・民主主義の運営体制や権力の「分割と均衡」を理解できる。	・民主主義の体制を支える参政権や選挙制度について理解できているか。 ・間接民主主義が採用されている理由、権力分立が必要である理由を理解しているか。	
	4世界のおもな政治制度	・アメリカやイギリスなどに代表される政治制度・体制を取り上げ、政治のしくみや政治機構が持つ役割について理解し、その意味を考察できる。	・政治制度の違い、国による特徴などを理解しその意味を考えることができているか。 ・単元後の小テスト、定期考査、提出物等の状況が良好かどうか。	
5月	第2章 日本国憲法と基本的人権 1日本国憲法の成立	・現在の日本国憲法が制定されるに至った歴史を理解し、憲法の意義を考えることができる。	・明治以来の日本の法制度を歴史的に理解できているかどうか。 ・憲法が我々の生活に関与している事実を認識することができるかどうか。	13
	2日本国憲法の基本原則	・日本国憲法の三原則について正しく理解し、その意義を認識している。 ・日本国憲法の原則を、自らの社会に重要な意味があるものとして尊重する意識が生じている。	・日本国憲法の三原則を理解し表現できるか。 ・日本国憲法の原則が持つ意味を自らに引き付けて考えることができるか。	
	3自由に生きる権利(1) 4自由に生きる権利(2) 5平等に生きる権利 6社会権と参政権・請求権 7新しい人権 8人権の広がりと公共の福祉	・市民革命を通じて実現されてきた「自由権」が多様であることに気づき、さまざまな場面で自由が尊重されなければならないことを理解している。 ・人間を平等な存在として取り扱う思想と社会活動の歴史を認識し、それが現在の社会において持つ意義を理解している。 ・20世紀後半以降に求められるようになった人権について理解している。 ・20世紀後半以後、人権が思想だけでなく実態としてもさらに多様化し、保護されるようになったことを理解し、権利を維持することの価値を感じ取ることができている。	・「自由権」が身体から内心・信条など様々な分野に関係するものであることを理解しているか。 ・人間の平等がどのような理由で求められ、何を重く見てきたかを理解しているか。 ・20世紀、実際にはその末葉以来拡大してきた人権についての考え方を理解できているか。	
6月	第3章 日本の政治制度と政治参加 1政治機構と国会 2内閣と行政機能の拡大 3公正な裁判の保障 4地方自治と住民福祉	・日本国憲法の規定を踏まえて、国会・内閣・裁判所の役割や諸機能について理解できる。 ・国会・内閣・裁判所それぞれがどのように構成され、それぞれがどのように業務を分担する仕組みになっているか理解できる。 ・政治制度において地方公共団体等がになっている役割と、われわれに対するその仕組みの関連を理解できる。	・国会・内閣・裁判所それぞれの機構・仕組みについて理解できているか。 ・三権の分割とその均衡について理解できているか。 ・18歳選挙権、裁判員制度、その他我々に関与していることが社会の中に数多く見られることを認識できているか。	16
	5政党政治 6選挙制度 7世論と政治参加	・日本における政党政治の歴史的背景や特徴を認識し、第二次世界大戦後現在に至るまでの制度的・運営的な特徴について理解できる。 ・民主政治を実現するための代表選挙が日本ではどのような制度として設けられ展開してきたかという歴史的側面と、現在実行されている制度の在り方について理解できる。 ・民主政治にとって大きな意味を持つ「世論」の意味と働き、さらに政治への参加が認知される場面等について理解ができる。	・政党が政治的意見を共にする人びとが、共通の政治的目的を実現するために結成したものだとして理解できているか。 ・選挙制度と政党の発展・消長が関連していることを認識し、政治に参加するための制度としての選挙の意義について理解し、考えることができる。	
	第4章 現代の国際政治 1国際社会と国際法 2国際社会の変化 3国際連合と国際協力	・国際政治が成立した歴史的経緯とその意義が理解できる。 ・国際法の原則を理解し、現在の社会で国際法にのっとって論じられている問題や国際法の発展について理解できる。 ・領土問題に代表される、世界各国でみられるさまざまな紛争や国際問題に対する関心を深め、日本もまかかわっていく必要があることを理解し行動でき	・国際法が成立した時代とその社会背景が理解できているか。 ・国際法の原則と、国際法による問題解決への努力について理解できているか。	

	指導内容	科目 政治経済 の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
7月	国際連合と国際協力	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦後の国際社会の動きや、日本が国際社会の中で果たしている役割を理解することができる。 ・第二次世界大戦後、戦争や人権侵害に対する国際社会の動きが大きく変わってきたことを理解し、そこで生じている変化に対する関心意識を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦後の国際社会の変化を踏まえて、現在戦争や人権がどのように考えられているかに関心を持ち、考えて理解することができるか。 	7
	4第二次世界大戦後の国際政治 5冷戦終結後の国際政治 6軍拡競争から軍縮へ	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦ののち、世界がどのような秩序の下にあったか、どのような国際関係が形成されたかを理解できる。 ・「冷戦」と呼ばれた状況の推移とその終結とされる事実を認識し、その後の国際関係の変遷について理解できる。 ・国際社会の安定を追求する中で、19世紀以来の軍事拡張に対して現在では軍縮の流れが一般化していることを認識し、その中で自分はどのように世界とかわかっているかを考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦の後、東西の二陣営に分かれた世界の状況が理解できているか。 ・「冷戦」の進行とその終結に至る歴史・社会的経緯について理解できているか。 ・国際社会において軍事力が有効なものと考えられた時代から、危険なものとして認識されるようになった現在までの発展・経緯について理解できているか。 	
			<ul style="list-style-type: none"> ・単元後の小テスト、提出物、定期考査等の状況が良好かどうか。 	
9月	第5章 日本の平和主義と国際平和 1平和主義と自衛隊 2日米安全保障体制の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・日本が採用している平和主義の理想がどのような経緯を経て形成されてきたかを理解し、その意義について考えることができる。 ・日本において自衛隊に関して行われている論争の内容を理解し、日本が置かれている立場や日本に対する国際的認識について考えることができる。 ・日本とアメリカが結んでいる安全保障体制を、より広い国際関係のうちにおいて理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の平和主義が、第二次世界大戦への反省や戦争一般の悲惨さなどを踏まえていることが理解できているか。 ・日本における自衛隊への認識が世界で与えられている認識とどのように異なるか、何を考えるべきかを認識することができる。 ・日本の安全保障体制が世界的な諸関係の中で現実にも動いていることを理解できているか。 	14
	3 21世紀の平和主義 4日本の外交と国際社会での役割	<ul style="list-style-type: none"> ・21世紀に入ってから発生したさまざまな紛争に対して、国際社会がどのように対処していったかが理解できる。 ・新しい時代の安全保障について、どのようなことが求められていて、どのような試みがなされているかについて認識し理解することができる。 ・第二次世界大戦後、日本が行ってきた外交の要点を歴史・社会的に理解し、日本がこれから果たすことができる役割について考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の国際社会における紛争等の動きと、紛争への対処について理解できているか。 ・安全保障に関する新しい考え方が理解できているか。 ・日本の外交について、客観的にその歴史的な動きを認識できているか。 	
10月	第3編 現代社会の諸問題 1 地域社会の変貌と住民生活 2 産業構造の変化と中小企業	<ul style="list-style-type: none"> ・日本で進められた「地方分権」に係る改革と、天災が生じたときに実際に直接対処する主体としての地方公共団体や市民団体等の在り方を理解し、自分の動き方について考えることができる。 ・日本の産業を支えてきた中小企業の現状を知り、新しい時代に向けて企業に求められていることや、社会的に要請されていることを理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地方分権の流れや、地方公共団体の変遷と働きについて理解できているか。 ・日本における中小企業の位置づけと役割、さらに今後の課題について理解できているか。 	14
	3 農業と食料問題 4 雇用と労働をめぐる問題 5 少子高齢社会と社会保障	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の農業について語られている問題にどのようなものがあるか、国際的に農業関係で生じている課題にはどのようなものがあるか理解し、食料など世界的な広がりがある問題を理解できる。 ・日本の雇用・労働状況について知るとともに、日本以外の国々で生じている雇用・労働問題に対する認識と理解を深める。 ・日本ほど急速でなくても少子高齢化が進んでいる地域はあることを知り、少子高齢化の進行から予測される課題について考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本で農業の衰退が言われるがその対策を含めた現状について理解できているか。 ・日本の雇用状況及び労働問題について知り、自分にも関係する可能性があることについて考えることができるか。 ・日本を含む世界各地で進んでいる少子高齢化が社会に与える影響について理解できているか。 	
11月	6 地球環境問題 7 地球環境と資源・エネルギー問題	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的に議論されている地球環境問題について、その実態がどのようなものであるか、環境問題が地下資源だけでなく水や大気も含めた多様な資源の扱いに関する問題であり、将来の地球や人類に係るということが理解できる。また、将来の地球と人類という点では、化石燃料を含む新旧さまざまなエネルギーの問題でもあることが理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題に対する関心の在り方と、世界的に進められているさまざまな対応策について理解できているか。 ・地球環境問題が地球そのものや人類の将来に対して与える影響を持っていることを知り、日本及び日本人には何ができるのか考えることができるか。 	15
	8 人種・民族問題 9 経済格差の是正と国際協力 10 国際社会における日本の立場と役割	<ul style="list-style-type: none"> ・地球上で発生している紛争のうちでその原因として大きな位置を占めている人種問題や民族問題についてそれがどのようなものであるかを理解できる。 ・世界でみられる経済格差などの諸問題に対して、国際社会ではどのような協力・支援が考えられ実行されているかを知るとともに、日本は現状に対してどのような役割を果たすことができるかを考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人種・民族問題が紛争などの原因となっている事情について理解できているか。 ・世界中で見出すことができる経済格差等の問題を客観的に理解できているか。 	

指導内容	科目 政治経済 の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数	
1 2 月				
	問題演習(政治的分野、国際分野)	・既習の内容を踏まえて問題を解くことができる。	・練習問題や模試の問題を解き、自分がどの程度理解できているか確認し、できていないところを復習させる。 ・授業中の態度や提出物、定期考査の結果が良好どうか。	9
1 月	問題演習(政治的分野、国際分野)	・既習の内容を踏まえて問題を解くことができる。	・練習問題や模試の問題を解き、自分がどの程度理解できているか確認し、できていないところを復習させる。 ・授業中の態度や提出物、定期考査の結果が良好どうか。	11
2 月				

3 月	指導内容	科目 政治経済 の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数

東京都立紅葉川高等学校 令和5年度 教科(公民) 科目(政治経済演習) 年間授業計画

教科:(公民) 科目:(政治・経済演習) 単位数(2) 対象:(第3学年 1・5・6組)

教科担当者:(小川峻)

使用教科書:(最新政治・経済 新訂版)

使用教材 :(蔭山克英の政治・経済が面白いほどわかる本 改訂4版)

指導内容	科目 政治経済演習 の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数	
4月	第1章 現代の経済社会 1 経済社会の変容 2 経済主体と市場の動き	・人間の経済的な営みを、資本主義の成立から現在のいわゆる修正資本主義、さらには新自由主義の登場にまで至る歴史的・社会的過程において理解する。 ・経済主体としての家計・企業・政府の働きを理解するとともに、市場において働く社会的機能について理解することができる。	・経済の基本事項を理解できているか。 ・経済活動が行われる場とそこで働くものについて理解できているか。	6
	3 企業の役割 4 国民所得	・企業にはどのようなものがあり、それぞれどのような特徴を持っているかを理解し、企業と社会との関連について理解することができる。 ・企業の社会的責任が論じられる理由と現在の社会状況とを合わせて考えることができる。 ・経済活動の指標として用いられる数値として国民所得などがあることを理解し、その意味を理解することができる。	・企業の種類を認識し、それぞれの特徴を理解できるか。 ・企業の社会的責任や社会活動を理解できるか。 ・国民所得などの数値の意味を理解できるか。	
	5月	5 経済成長と国民の福祉 6 金融の役割	・経済成長とは何を意味するのか、日本において経済成長はどのように進行したかを理解することができる。 ・経済活動が景気変動を結びつけていることを理解し、景気変動を示す数値の意味を理解することができる。 ・景気などの経済の動きに通貨量が深くかかわっていることを理解し、金融と経済の関係について理解することができる。	
7 日本銀行の役割	・日本で唯一の中央銀行である日本銀行が果たしている役割について理解する。	・中央銀行の持つ券券機能や市場操作などの役割について理解できている。		
6月	8 財政の役割と租税 9 日本の財政の課題	・財政が経済活動に対して果たしている役割を理解し、財政を動かすための税制や収支について理解する。 ・日本の財政が現在抱えている問題を知り、それらの問題と日本人の生活等との関係について考えることができる。	・財政が何を目的に、どのような原理に沿って行われているかを理解できているか。 ・財政にかかわる租税その他の要素について理解できているか。 ・日本の財政が抱えている問題について理解できているか。	8
	第2章 現代の日本経済と福祉の向上 1 戦後復興から高度経済成長へ 2 安定成長からバブル経済へ	・第二次世界大戦の後、日本において行われた経済改革について理解し、1960年代以降の経済成長がいかにして進められたかを理解する。 ・1970年代に外国からもたらされた条件によって日本の経済がどのように動いたかを知り、その後の経済的な変化がどのように進み、今につながっているかを理解する。	・第二次世界大戦後に日本で行われた経済改革・社会改革について理解できているか。 ・日本経済が1960年代以降にたどった道すじについて理解できているか。 ・1970年代以後の日本経済の動きと世界経済の関係について理解できているか。	
3 日本経済の課題 4 中小企業と農業	・現在の日本経済が抱えている問題について知り、それらの問題が自分自身とどこでかかわっているかを考えることができる。 ・日本経済の課題に向き合うことが自分自身の人生に向き合うことに関連していることを理解できる。 ・中小企業や農業が、いまの日本では難しい位置に置かれていることを理解す	・日本経済がかつてのような活力を持っていない現在、直面している問題がどのようなものか理解しているか。 ・日本経済において中小企業や農業が現状で不利な位置にあることを理解し、考えられて		

指導内容	科目 政治経済演習 の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数	
7月			3	
	5 消費者問題	・一般に消費者が受けやすい損害やさらされがちな危険について知り、準備されている対策や人権について理解を深める。		・悪質商法などについての知識とそれらに対する行政的な保護などの現状を知り、それらの関係や意義について理解できているか。
9月	6 公害防止と環境保全	・かつての経済成長が生んだ公害について知り、現在の環境問題との関連について考えることができる。	・公害と呼ばれた問題について歴史・社会的な事情を含めて理解するとともに、現在の環境問題との関連や対策についての参考点を考えることができるか。	7
	7 労働問題と労働者の権利 8 今日の労働問題	・労働者ならだれでも直面する労働問題について知り、労働基本権とは何か、労働環境の改善に必要なことは何か等について理解する。 ・今日の日本社会では、従来行われてきた労働慣行が維持できなくなっている面があり、これからの社会に向けて問題があることを理解することができる。	・労働問題が社会において取り扱われるようになった歴史的経緯から現状に至るまでを理解できているか。 ・労働問題に対処するための法及び制度について理解できているか。 ・日本社会の労働問題について、近年みられる労働慣行の変化などが関係していることを理解できているか。	
	9 社会保障の役割	・社会保障が歴史的に形成されてきた経緯を理解し、現在の社会でもその役割が重要であることを理解できる。	・社会保障の歴史的な意義を理解できているか。	
10月	第3章 現代の国際経済 1 貿易と国際収支 2 外国為替市場のしくみ	・貿易によって動いている国際経済について知り、貿易に関する考え方やその場での金銭の動きについて理解できる。 ・外国為替の取引というのはどのようなものか理解できる。	・近代以後広く行われてきた貿易が現在持っている異議を、過去の状況と照らして理解できているか。 ・外国為替の動きと国際的な商取引の関連について理解できているか。	7
	3 第二次世界大戦後の国際経済	・第二次世界大戦の終了後、国際経済を動かしてきた仕組みについて理解し、国際関係と経済活動との関係が深いことを理解できる。	・第二次世界大戦後に形成された国際経済体制とその変遷について理解できているか。	
	4 国際経済の動向(1)	・国際経済についてこれまで進んできた地域統合とはどのようなことか理解できる。	・ヨーロッパ、アジアなど世界各地の地域統合について正しく理解できているか。	
11月	4 国際経済の動向(1)【承前】	・地域統合が全世界的な動きになりつつあることを知り、日本がその中で何ができるかを考えることができる。	・地域統合の広がりが、逆に国際間の連携に関する問題を生じていることと、その中で日本が置かれている位置について理解できているか。	9
	5 国際経済の動向(2)	・現在の経済活動が、いわゆる実体経済にとどまらず金融を核とする活動に拡大していることを知り、その中にある危険や要注意点などを理解することができる。	・金融が銀行だけでなくより広い動きになっていることを理解し、その影響が国境を越えて広がる可能性が高まっていることを理解できているか。	
	6 発展途上国の諸問題	・発展途上国が置かれている位置への理解を深め、国際経済において対処すべき問題について理解することができる。	・発展途上国に分類される国家群について、その状況を理解して世界経済との関連を考えることができるか。	

指導内容	科目 政治経済演習 の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数	
1 2 月	7 経済協力と日本の役割	・日本が外国に対して行っている経済協力の意義と課題について理解できる。	・日本のODAが世界の中でどのように評価され、実際どのような効果を生んでいるかが理解できているか。	5
	問題演習(経済分野、国際通商分野)	・既習の内容を踏まえて問題を解くことができる。	・練習問題や模試の問題を解き、自分がどの程度理解できているか確認し、できていないところを復習させる。 ・授業中の態度や提出物、定期考査の結果が良好かどうか	
1 月	問題演習(経済分野、国際通商分野)	・既習の内容を踏まえて問題を解くことができる。	・練習問題や模試の問題を解き、自分がどの程度理解できているか確認し、できていないところを復習させる。 ・授業中の態度や提出物、定期考査の結果が良好かどうか	7
2 月				

【スタンダード計画報告様式2】

	指導内容	科目 政治経済演習 の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
3 月				